

会 議 名	パリ市 15 区への青年海外派遣事業支援業務委託 第 3 回事業候補者選考委員会
開催日時	令和 8 年 5 月 27 日（水）午後 6 時から午後 8 時まで
開催場所	港区役所 912 会議室
委 員	（出席者） 明治学院大学心理学部教育発達学科教授 渋谷 恵（委員長） 文化芸術事業連携担当部長 西川 杉菜（副委員長） 戸板女子短期大学国際コミュニケーション学科教授 松井 恵美子（委員） みなと芸術センター開館準備室長 宮崎 刀史紀（委員） （欠席者） 教育委員会事務局学校教育部先端教育担当課長 溝口 貴裕（委員）
事 務 局	地域振興課国際化推進係
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	〔席上配付〕 資料 1 第二次審査実施概要 資料 2 第二次審査採点基準表 資料 3 第二次審査における共通質問事項趣旨 資料 4 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配布） 資料 5 第 2 回選考委員会議事録 参考資料 1 第一次審査集計結果 参考資料 2 パリ市 15 区への青年海外派遣事業支援業務委託事業候補者募集 要項等一式
会議の内容	
委員長	1 開会 ただいまから第 3 回事業候補者選考委員会を開会いたします。 本日は A 委員が欠席となりますため、出席されている各委員の配点の合計を、それぞれ 1.25 倍にすることで、満点はそのままの 550 点としたいと思いますが、いかがでしょうか。
全委員	（異議なし）

委員長	それでは、本日の採点は、出席されている委員の点数を 1.25 倍とすることとします。 2 第二次審査実施概要について (事務局からプレゼンテーションの概要を説明) 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施
A 事業者	<プレゼンテーション>
事務局	選考委員から質問します。
C 委員	当日になって急に予定していた添乗員の同行が難しくなった場合の対応はどうされますか。
A 事業者	バックアップの添乗員が備えており、予定していた添乗員の同行が難しくなった場合は代わりに対応します。
C 委員	御社が受注している他事業と本事業の対応が重なる時期があると思いますが、その場合でも安定した対応をしていただけるのでしょうか。
A 事業者	担当者を 2 名にしており、常に情報を共有しながら進めるため、安定した対応が可能と考えています。
C 委員	参加者の年齢が幅広くなると想定されますが、今回の提案は、年齢について、こういったことを想定してプログラムを作成したのでしょうか。
A 事業者	学生の旅行を専門的に取り扱っており、普段から実施している業務の対象となる学生と今回の参加者の年齢が一致しています。現地業者とも相談し、学生に人気かつ文化体験をできるようなプログラムを企画しました。修学旅行をする学生に人気のプログラムであるため、テーマパークも選択肢の一つとして入れました。
C 委員	観光だけにならないよう「学ぶ」「還元する」という視点でプラスアルファになるものを区としては求めているのですが、このプログラムから得られる効果という点はどのように考えていますか。
A 事業者	それぞれのプランにテーマ設定を設けており、希望のテーマに合わせて選ん

	でいただくことも良いですし、一つのテーマを突き詰めて追っていただくことも良いと考えます。日本とパリの違いを実際に体験し、問題点を見つけていくような課題解決的な内容を想定しています。
C 委員	今回いただいたご提案内容について、区側から変更や追加の要望があった場合は柔軟に対応いただけますか。
A 事業者	スケジュールの実施可否や実際の参加者の年齢層も加味して、区と協議したうえで、柔軟に対応していきたいです。
E 委員	市販のガイドブックを活用した事前研修について、今までどのような面で活用されてきたのか、今回の事業にどのような効果をもたらすのかを教えてください。
A 事業者	これまで、語学研修等に活用し、現地での会話のコミュニケーション等に使用してきました。事前に作成をする場合は、自国の文化を旅行先の言語で作成し、現地で活用するといった使い方をしています。修学旅行等では事前に作成することではなく、実際に現地を見たものを学生がガイドブックとして作成することで、学生同士の交流にも活用でき、成果物として残すものになっています。
E 委員	テーマパークのツアーはどのような理由で行うのでしょうか。
A 事業者	現地で誰かが説明するというのではなく、主体的に体験を行ってほしいと考えています。日本と比較してどのような違いがあるのかを体験してほしいプログラムです。事前研修で参加者がガイドブックを作成する際に日本のテーマパークについて記載し、事後にパリのテーマパークについて記載する、といったような使い方ができるとよいと思います。
E 委員	今回の事業の趣旨と修学旅行との違いをどのように認識していますか。
A 事業者	修学旅行は先生の指示により決められたプログラムを実施しますが、今回の事業は参加者が主体的に手を挙げて学びを進めていくところが大きな違いだと認識しています。また終わった後に参加者が他の子どもたちや周りの人に事業の内容を伝え、広げていく部分でも修学旅行との違いがあると思います。研修の終了後にどのように区民に還元していくかがテーマの一つと考えています。
D 委員	「港区」と共に行う事業として、港区だからこそできる内容等は考えておりますでしょうか。

A事業者	仕様書をベースにプログラムを考えていますが、ファッションやテーマパークのツアーなどの文化体験部分でオリジナリティを出しています。提案しているプログラムについても柔軟に対応したいと考えています。
D委員	人気が高いからという理由以外に、マカロン作りの体験を提案した理由を教えてください。
A事業者	フランスを代表するお菓子ということで興味を持ってもらいやすいため提案いたしました。
D委員	マカロン作りの際のアレルギー対応についてはどのように考えていますか。
A事業者	参加者のアレルギー情報を確認させていただいた上で、該当者がいた場合は違ったものを提案したいと考えています。
D委員	学びの面でアセスメントテストをされるとのことですが、御社の独自のものを使用するのでしょうか。
A事業者	外部のものを活用します。研修に行く前と後について比較し、どのような効果を得られたのかを客観的な指標で判断できるテストです。過去の留学事業で活用したことがあります。
B委員	このプログラムで得られるグローバルマインドはどのようなものを想定しているか、今回は年齢の幅が広いですが、これまでのご経験と今までありがちだったトラブルとその対処方法、また現地の体制について具体的に教えてください。
A事業者	まず現地の対応についてです。仕様書上は添乗員1名と記載がありますが、弊社からは2名を派遣し、安全対策をより強固なものにしたいと考えています。現地の旅行代理店と情報共有をしながら常に連携を取りつつご案内をします。 年齢差につきましては、弊社でそれぞれの年代ごとに特色を把握しているため、参加者に合ったプログラムをご提案できると考えております。また選択制のプログラムにすることで、それぞれの年代に合ったプランに振り分けるのも良いかと思います。
事務局	質問及び審査は以上になります。

B事業者	<プレゼンテーション>
事務局	選考委員から質問します。
C委員	御社の事業と港区の事業の実施時期が重なると思いますが、港区の事業に充分なりソースを割いていただけるという認識でよろしいでしょうか。
B事業者	はい。ご認識のとおりです。
C委員	今回の事業は幅広い年齢層が対象になっているという点で、こういった内容を意識してプログラムをご提案されたのでしょうか。
B事業者	港区の文化とパリ市 15 区の文化をそれぞれ比較しながら体験いただけるプログラムをご提案いたしました。年齢層によって感じ方の違いはあると思いますが、年齢の幅があってもそれぞれの感じ方で体験いただけるプログラムになっています。
C委員	今回いただいたご提案内容について、区側から変更や追加の要望があった場合は柔軟に対応いただけますか。また、今までの実績でオーストラリアへの派遣が多いと感じますが、パリでも問題なく事業を実施いただけますか。
B事業者	追加の要望等には柔軟に対応させていただきたいです。またパリでも問題なく事業を実施できます。
C委員	本事業は観光が目的ではなく、自治体の事業として区民に還元していく必要がありますが、将来的にどんな効果や区民への還元方法が考えられるでしょうか。
B事業者	参加者に関しては、事前学習および現地派遣、事後学習を通して港区とパリを比較しつつ学んでもらうことができます。そして、発表会の内容を広く発信することで区民にも還元できると考えます。
E委員	担当業務の件数が多いと感じますが、業務量については問題なく回せるという認識でよろしいでしょうか。
B事業者	今挙げている担当業務につきましては、毎年実施をしているものであり流れがすでに完成しているため、人員が多く割かれることはありません。4名体制で事業を進めてまいりますので本事業の実施に不足はないと考えております。

E 委員	事前の研修等におきましては、先生のような役割の人が必要になってくと思いますが、こういった方が関わるのでしょうか。
B 事業者	事前研修等では、語学学校のスタッフやプロの料理人などから部分的に講師として選びたいと考えています。ファシリテートについては当社のスタッフが行う予定であり、教育旅行等の事前研修においてファシリテートをした経験があるスタッフの中から選びたいと考えております。
D 委員	研修の中で、「自ら問いを立てる」といった内容があったと思いますが、問いが立てられない参加者への対応ができる方々を付けていただけるのでしょうか。また全て机上で研修を行うのか、フィールドワークのような研修があるのかも伺いたいです。
B 事業者	まず問いが立てられない参加者への対応についてです。参加者の自主性を育てるためにも、すべてを誘導するのではなく、ヒントを与えるといった対応でフォローをしていきたいと考えています。実際のフィールドワークにつきましては協議の上柔軟に対応させていただきます。
D 委員	アレルギー対応についても柔軟に対応していただけるという認識でよろしいでしょうか。マカロン作成のプログラムがあったので気になりました。
B 事業者	参加者の情報を収集した上で、しっかりと対応させていただきます。
D 委員	研修等の中での効果検証についてはどのように行うのでしょうか。またその方法は今までも活用されてきたものでしょうか。
B 事業者	アンケートを当社で作成し、結果に基づいたフィードバックを提出します。今までの事業でも同じようなものを活用しており、質問事項等は案件に合わせて柔軟に変えていきたいと考えております。
B 委員	多文化の意識の醸成と、多様な人々と共に生きるということを理解する、という目的はプログラムの中でどのように表れるのでしょうか。
B 事業者	提案した5つのプログラムは、それぞれ伝統建造物の文化や食文化などに分かれており、多様な文化をそれぞれ体験・比較をしてもらうことで多文化の意識を醸成できるのではないかと考えています。パリは歴史的な背景の中で色々な民族との関わりを持ってきた一方、日本はほかの民族とのかかわりが少な

	ったという面があり、そういった点でも比較していただけると考えます。
B 委員	緊急連絡体制について、現地企業と日本との連携はどのように行うのかを教えてください。
B 事業者	部署内に設立した緊急対策本部、本社に設立した緊急対策用の部署、港区の事務局で連携をとり進めていきます。
B 委員	御社でファシリテートをする際に、どのようなことに気を付けるか、どのような組織づくりを行うのかを教えてください。
B 事業者	年齢層が幅広いということは、参加者の方々にとっても刺激的な場になると考えており、意見交換の場などでは積極的にコミュニケーションを取ってもらいたいと考えているため、年齢層を分けて事前研修を行うことは考えていません。
B 委員	年齢が違う参加者同士でも話しやすい雰囲気づくりは、どのようにされるのでしょうか。
B 事業者	内容が難しすぎたり簡単すぎたりしないよう、バランスを見ながら進めたいと考えています。
事務局	質問及び審査は以上になります。
	4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について
委員長	事務局から、第二次審査結果及び総合結果の報告をお願いします。
事務局	集計の結果、二次審査の結果が、A 事業者 318 点、B 事業者 403 点となり、一次審査と合計した総合結果は、A 事業者 933 点、B 事業者 1,086 点です。
委員長	審査に当たり、評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いしたいと思います。
D 委員	A 事業者について、港区の派遣事業の趣旨を理解し切れていないという印象を受けました。アセスメントについても、今回の事業に当て込めるかどうか考えられていない印象を受けました。 B 事業者については、実施プログラムのテーマ付けや現地の緊急体制におい

	て、比較的明らかになっていたと感じ、港区と行う事業としての理解もできていたという印象でした。
E 委員	A事業者、B事業者ともに実績も能力も十分にあるだろうという印象でした。 A事業者については、内容の理解および実現性において、少し不安が残るという印象でした。危機管理においても、安心して任せると言い切るには忍びないなと思いました。 B事業者については、内容の理解や組立てにおいてはよくできていましたが実施できるかどうか少し曖昧な印象でした。危機管理については、現地において問題なく対応できると言い切っていた点が評価できると思いました。
C 委員	A事業者については、一次審査の際も同様だったのですが、旅行という面に強くフォーカスをしており、本事業の目的を理解しきれていない部分がある印象を受けました。 本日の質疑応答もそうですが、B事業者の方が、本事業の趣旨や区が求めるものを理解されており、全体を通して、安心して任せられるという印象でした。ただ、幅広い年齢層の参加者の対応については、グループ等に分けたりせず一緒に進めるというご説明でしたが、それについては、少し不安に感じました。B事業者が選ばれた際は、年代層に応じて丁寧に対応していただくよう調整が必要だと思いました。
B 委員	A事業者について、全体的に観光旅行に近いものに感じ、業務趣旨の理解度も普通程度という印象を受けたため、B事業者と差をつけています。特に提案の効果性の面で多文化共生意識の醸成を見越せないのではないかと感じ、低く点数をつけています。危機管理について、国際情勢が厳しい中で、緊急対応についての言及がなく残念に感じました。 B事業者については、航空機やルートの指定など、現在の情勢も踏まえた対応を考えており、現地でのトラブル対応についても言及があったため安心できると感じました。港区とのつながりも強調してお話しをしており、観光だけにとどまらないテーマ設定をしている点が良かったと思います。ただ実施内容について、日本とフランスの比較だけになることなく、今のパリを理解するような内容があると良いと思います。
委員長	各委員からの講評、意見交換を踏まえ、採点を変更する委員はいますか。
全委員	(変更の希望なし)
委員長	集計結果を踏まえ、B事業者を事業候補者としたいと思いますがいかがでし

全委員	ようか。 (異議なし)
事務局	5 その他 (事務局から今後の流れを説明)
委員長	6 閉会 以上で本委員会を終了します。